

整理番号	28-7	事務事業名	市道排雪補助事業	作成部署	建設部土木事務所	電話	内線760	
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	齊藤順二	課長職名	高橋孝一	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	H9	根拠法令等	北広島市排雪事業補助金交付要綱					
〃 終了予定年度								
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	冬期間の交通確保及び生活環境の向上を図ることを目的とする。							

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	高い都市機能を持ち、活力にあふれるまち	(第5章)
	節	道路と交通	(第3節)
	施策	冬期間交通の確保	(第5施策)
目的(ここから成果指標を導きます)	対象(誰、又は何を)	市道(生活道路)の排雪事業を実施する自治会等	
	意図(何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	冬期間の交通を確保し生活環境の向上を図る。	
手段(ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	市道の排雪事業を実施する自治会等が、排雪に要する費用の補助を受け事業を実施。 平成13年度 市道の排雪事業を実施する34団体自治会等への補助金交付(1/3補助) 平成14年度 市道の排雪事業を実施する34団体自治会等への補助金交付(1/3補助) 平成15年度 市道の排雪事業を実施する41団体自治会等への補助金交付(1/2補助) 平成16年度 市道の排雪事業を実施する50団体自治会等への補助金交付(1/2補助)
		17年度	市道の排雪事業を実施する50団体以上の自治会等が、排雪に要する費用の1/2以内の額の補助を受け事業を実施。

2 実施(ドゥ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財				
	一般財源	14,993	17,166	15,998	25,025
	合計	14,993	17,166	15,998	25,025
人件費(概算)	人数(年間)	0.17	0.17	0.17	0.17
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	1,530	1,530	1,530	1,530
総事業費 +	16,523	18,696	17,528	26,555	

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	排雪実施延長(km)	77.2km	88.4km	78.2km(88.4km)	99.4km
	補助団体数	41	50	50	55
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	排雪事業実施率(%)	36.2%	41.5%	36.7%(41.5%)	46.7%
	(排雪実施延長 / 生活道路総延長)				
	[生活道路総延長(補助対象L=213km)]				
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	排雪補助導入率(自治会総数155団体)	26.5%	32.3%	32.3%	35.5%
	1km当り排雪コスト	214千円/km	211千円/km	224千円/km	267千円/km
	(総事業費 ÷ 排雪延長)				
	1団体当たり補助額	403千円/団体	374千円/団体	351千円/団体	483千円/団体
	(総事業費 ÷ 排雪実施団体数)				

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	生活道路の除雪については、近年快適な冬期間の生活環境向上のため、排雪要望が高まってきている状況である。
---------------------------------	---

回数

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	市道の排雪であるから、行政関与は妥当と考える。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	生活道路の環境向上という目的は、適切である。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	補助金交付という手段は、効率的である。	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない	市道全てを排雪するのは、財政状況を考えればきわめて困難であることから、受益者負担(1/2)は妥当である。	

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	交通障害などが生じることなく、快適な環境が確保されている。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	市と自治会等との相互負担による排雪であることから、効率的である。	

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	冬期間の生活環境向上のため、相互負担による排雪補助制度を継続する。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	1次評価のとおり